

ふるさとに誇りを持ち
笑顔と元気があふれる 椿っ子の育成
分散型小中一貫教育
(チェーンスクール) を活用して



椿町中学校区小中一貫教育キャラクター「ツバッキー」



椿小学校・椿泊小学校・椿町中学校の児童生徒、教職員、保護者の皆さん

系列網)で結ぶスケールメリットを生かし、各学校の人的・物的資源を相互に活用しながら多様な学びを保障する、経済効率性と教育多様性を同時に追求した学校間連携の考え方に基づく学校としています。

■椿・椿泊地区におけるチェーンスクールを活用した学校教育の推進

阿南市立椿小学校、椿泊小学校、椿町中学校の3校は、平成25年度に文部科学省「小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究事業」の研究指定を受け、チェーンスクールを活用した小中一貫教育についての研究に取り組んできました。

その結果、小規模校の課題である「集団活動、集団行事の教育効果の低下や協働的な学びの実現の困難さ」については、このチェーンスクールの活用により大きな集団が形成されることで集団活動・集団行事の実施が可能になり、多様な学びやふれあいを見ることができ、児童生徒は経験することができるようになりました。「人間関係の固定化」



小中合同での学び

という課題についても、校種を越えた人間関係の広がりが生まれ、人間関係構築力やコミュニケーション力の育成が図られています。

また、学校間ネットワークの構築・強化により、校種を越えて他校と情報交換をする機会が増えたり、教職員間で他校の子どもの話題が日常的に出たりするなど、椿・椿泊地区全体の教員として、小中一貫した9年間の学びを通して子どもを育てるという意識が教職員の中にも深まっています。

さらに、小中一貫教育の視点に立った合同学習や合同行事が増加し、小学生が中学校を訪問して学習したり活動したりする機会が飛躍的に増えたことにより小学校から中学校への円滑な接続が図られ、中一ギャップの解消にも結びついています。

平成27年度は、新たに文部科学省から「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」、徳島県から「小中一貫教育(徳島モデル)推進事業」の研究指定を受け、これまでの取組の成果をもとに、「確かな学力の育成」、「社会性・リーダー性の育成」、「ふるさとを愛する心の育成」、「判断力・行動力・共助心の育成」の4つの柱を立て、椿・椿泊地区がめざす児童生徒像(共通目標)である「ふるさとに誇りを持ち、笑顔と元気があふれる椿っ子」の達成に向けて多様な教育活動を展開し、学校教育の一層の活性化に取り組んでいます。

少子高齢化や都市への人口集中により地域の過疎化が進み、学校の小規模化、学級の少人数化による教育への影響が全国各地で課題となっています。阿南市立椿小学校、椿泊小学校、椿町中学校の3校が位置する椿・椿泊地区も同様の課題を抱えており、地域の児童生徒数は平成10年には小中学生合わせて206人でしたが、平成20年には102人となり、平成28年度は48人まで減少しています。

椿・椿泊地区3校は、近隣の学校からは山を隔て、トンネルを抜けた遠隔地に位置しています。こうした地理的要因や地域事情、また地域コミュニティの拠点である学校の存在意義を踏まえ、3校では学校の統廃合ではなく、学校間ネットワークの構築・強化により学校教育の活性化を図ることを目的として、分散型小中一貫教育(チェーンスクール)を活用し、教育の質の保障に取り組んでいます。

分散型小中一貫教育(チェーンスクール)を活用した活力ある学校教育の推進



■チェーンスクールとは

徳島県教育委員会は、平成24年度に鳴門教育大学と共同研究を行い、平成25年3月に「徳島県における今後の人口減少社会に対応した教育の在り方研究」を最終報告書としてまとめました。この報告書では「チェーンスクール」と「パッケージスクール」という2つの学校教育のかたちを「徳島モデル」として提案しています。チェーンスクールについては、小規模校を維持しつつ、複数の小規模校をチェーン(連鎖・





確かな学力の育成

小学校合同や小中学校合同で、児童同士、また児童生徒がともに学ぶ合同学習を頻繁に実施しています。多様な学習形態により学習活動が活性化し、学びの広がりや深まりにつながっています。また児童生徒・教員の交流が図られることにより、中一ギャップの解消に結びついています。

■チェインスクールを活用した取組 合同学習



個に応じた指導

小規模校のよさを生かし、一人一人の学習状況にしっかりと目を配りながら、個別指導の充実など、きめ細やかな指導に取り組んでいます。

■小規模校のよさを生かした取組

地域の方に協力していただき、椿小・椿泊小合同で米作り体験をしました。田植えや稲刈りの体験を通して、子どもたちは生産者の苦勞を学びました。収穫したお米は学校で児童が調理し、おいしくいただきました。食育と結びつけ、食べ物を大切にする心を育てています。

■田植え・稲刈り体験



うみがめの大きさや重さを実感

地域の蒲生田岬に上陸・産卵するうみがめの観察や保護活動に取り組んでいる地域の方を講師に招き、うみがめの生態や保護について児童生徒がともに学びました。環境学習と結びつけたうみがめ学習を通して、郷土の自然を大切にすることを育んでいます。

■うみがめ学習

世の中の出来事に対する様々な考えを知ったり、考えを深めたり、情報を吟味したりする力の育成をめざして、NIEに取り組んでいます。新聞記事の作成にも取り組み、小中学生が協力して作り上げた記事は新聞に掲載され、県内に配信されました。

NIE



中学校教員による小学校への出前授業

教員の専門性を生かし、小中学校教員が相互に出前授業を行っていきます。児童生徒にとってはより専門的な学びを得られ、また教員にとっては地域の教員としての意識の向上や児童生徒理解の深まり、小中のつながりを意識した取組の推進につながっています。

出前授業



地域の歴史や名跡についての学び

地域で活躍されている方を講師に招き、地域の歴史や文化、伝統などについて学ぶ、ふるさと学習を実施しています。講師の方の話を通して、自分たちが暮らしている地域を深く知ることにより、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつ人材を育てています。

■ふるさと学習



田植え体験

社会性・リーダー性の育成

保育園児から高齢者まで、地域全体がひとつになって毎年9月に実施されています。小中合同種目では小中の交流が図られています。また、準備や運営など多くの役割を小中学生が担い、地域の人々との関わりの中で社会性を育む機会となっています。

■椿・椿泊町合同運動会



小中学生が協力して体力測定

椿小学校・椿泊小学校の全校児童が椿泊中学校に集まり、中学生も交えて異学年の縦割り班で体力テストを実施しています。小学生にとっては同年代の児童との交流の機会、中学生にとってはリーダー性を育む機会となっています。

■小中合同体力テスト



椿泊小学校児童による人権発表

地域全体の人権意識の高揚を図るために、保護者や地域の方々も参加して毎年冬に公民館で実施されています。人権ポスターや人権標語の展示とともに、小・中学生による人権発表を行い、地域への人権啓発に取り組むことで社会の一員としての自覚を育んでいます。

■椿支部人権教育研究大会



小中合同種目



ロープの結び方を学習

避難時の心構えや緊急時のロープの使い方を学びました。また、地震体験車では震度7などの強い揺れを体験しました。地震の恐ろしさや、地震が起きたときの対応、地震に対する備えの大切さなどをともに学び、防災意識の向上を図っています。

■防災教育・地震体験車体験



防災に関するクイズを解答中

判断力・行動力・共助心の育成



小中合同でオリエンテーリング

3校の児童生徒・保護者・教職員が参加し、毎年地域を変えて実施しています。児童生徒と保護者による混合班で、避難場所等の確認をしたり、防災に関するクイズを解いたりしながら地域を歩き、防災に対する意識を高めています。

■ふれあい防災オリエンテーリング



テレビ会議での小中学生の交流

合同学習や児童生徒間交流を行う際に、児童生徒の移動や教員の打ち合わせにかかる時間の確保がひとつの課題です。テレビ会議システムを活用することで、各校にいなから合同学習や児童生徒間交流、教職員の打ち合わせや会議を行うことができるようになり、取組の効率化が図られています。

■テレビ会議システムの活用

チェーンスクールの充実に向けて

■研究推進組織の構築・強化

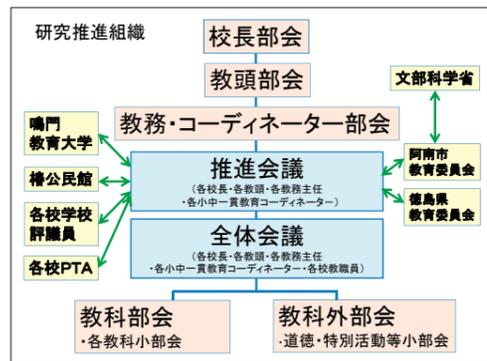


教職員の打ち合わせ

校長部会、教頭部会、教務・コーディネーター部会等組織し、機能的な研究推進体制を構築しています。推進会議では大学教授、教育委員会関係者等を招き、指導助言を受けながら研究の方向性を確認していきます。また、校長部会



校長部会



事業推進に向けての協議

研究会では目標や取組内容についての協議や共通理解を行い、円滑な研究推進を図っています。

ふれあい防災オリエンテーリングをした時、中学生が私たちをリードしてくれました。私たちに歩くスピードを合わせてくれたり、クイズの答えを聞いてくれたり、みんなで協力してできました。最後の難しい問題も一緒に答えを考えて正解できたので、うれしかったです。来年もしたいです。そして、ほかの小中一貫の活動でも、みんなで協力し合って、仲良くなっていきたいです。



藤目 心海さん (椿泊小学校5年)

チェーンスクール 教育現場の声

椿・椿泊地区の運動会はとても楽しいです。椿泊の友達とは一緒に綱引きをしたり、名前を呼び合ったりし、とても仲良くなりました。また中学校の人とも一緒に競技をしました。その時は中学生が優しく教えてくれました。この椿泊小と中学校との合同運動会が、いつまでも続いてほしいです。また、伊島小との交流も楽しいです。



坂崎 さくらさん (椿小学校6年)



多田 幸司さん (椿泊小学校教員)

さまざまな考えに触れることのできる合同授業は、子どもたちにとって考えを広げることのできる良い機会となっています。また、テレビ会議システムを用いて、朝の活動の時間や休み時間など授業のほか、簡単に交流することができています。今後はこれらをより積極的に活用し、小中間の交流を深めていきたいと考えています。



出崎 世奈さん (椿町中学校3年)

私が小中一貫教育の取組で楽しいと感じることは、普段交流があまりない小学生たちと触れ合えることです。小中合同体力テストや、運動会など中学校の校庭でしかできないことも、合同であれば、より大規模な人数でできます。また、昨年に導入されたテレビ会議システムにより、小中合同の活動の幅の広がりにも期待しています。

小規模校のメリットを最大限に生かした取組が、地域の活性化につながればという思いで3校が取り組んでいます。以前より、児童・生徒が自らの意見を考え、気持ちをしっかりと発言できる機会が増えました。テレビ会議システムの導入により、移動時間も短縮されました。今後も全力で地域・家庭に向けて「笑顔と元気」を発信していきます。



清水 佳子さん (椿町中学校教員)

小中一貫教育を活用した取組が実施された日には、家に帰ってきてうれしそうに話をしてくれる子どもの姿を見て、小中一貫教育は小規模校のメリットを生かした最高の取組であると感じています。椿・椿泊地区の子どもたちが義務教育の期間、全員が楽しく仲良く、良い思い出をたくさん作って町外の高校に向けて旅立ちができることが重要だと思います。



八原 幸生さん (椿小学校PTA会長)

「みんなの椿町」

作詞 椿・椿泊地区の子どもたち
作曲 堀内 佳

この歌は平成26年度に児童生徒が合同で作った地域のイメージソングです。歌詞の1番を椿小学校、2番を椿泊小学校の児童が「地域のよいところ」をテーマに作詞し、3番は椿町中学校の生徒が「ふるさとと自分の未来」をテーマに作詞しました。合同学習や地域の行事の機会に、このイメージソングをみんなが歌っています。

(1番) 真っ赤に咲くよ 椿花
水魚びちびち 椿川
ウミガメくるよ 蒲生田の浜に
朝日かがやく 明神山の
アサギマダラに夢のせて
元気いっぱい 椿っ子

(2番) 椿泊の 青い海
大漁旗に あこがれて
大きな海を 進む海の子
船だんいりに 水中花火
木造校舎 佐田神社
みんな僕らの 宝物

(3番) 生まれ育った ふるさは
笑顔あふれる 椿町
未来へつなぐ 豊かな自然
人から人へと 伝える文化
光が照らす 僕らの未来
この町ずっと この胸に